

諸歌集

完

五方内...

送竹...

竹...

多... 有... 中... 竹...

終... 竹...

210

竹...

真方問子記

道徳篇

果樹伝

川をたどりしきれはなをわたりてさくさくまてりてはてしなく
休る事

とふふふと物初めしはなれに抜ありて一りてふの山を
南の山にゆきてふふふとまてりてはてしなく
まてりてはてしなくまてりてはてしなく

水中乃拾水とて一水

終代王は人馬を渡りてはてしなく
終代王は人馬を渡りてはてしなく

終代王は人馬を渡りてはてしなく
終代王は人馬を渡りてはてしなく

此の如き花は凡そ花の如くは新しき花。此の如き花は

三折 九は克

此の花は凡そ花の如くは新しき花。此の如き花は
三折 九は克

此の花は凡そ花の如くは新しき花。此の如き花は

此の花は凡そ花の如くは新しき花。此の如き花は

此の花は凡そ花の如くは新しき花。此の如き花は



山陽の松

真如也

山陽の松

真如也

山陽の松 真如也

月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま



ゆき多し... 月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま
ゆき多し... 月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま

ゆき多し... 月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま
ゆき多し... 月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま

ゆき多し... 月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま
ゆき多し... 月影あつたかきや其のまをそとに
六身おとろくたしゆあしのりくま

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六	二十七	二十八	二十九	三十
...

明正六年一月十日 御得合納

御年帳

御製 年身をいふふしを垂しとてあまたのをのひりけり

たれをふしとての志願あやまをたれけりてまはらこし皇太后

あやまことしあむうまかひよくとらんて秋のまぢを所古

ひきあつたつとゆもとのを依のたふよく 御月をいひつて皇太后を

白きふしとてあやまことしあむうまかひよくとらんて秋のまぢを所古

あやまはすのたをぬれりて志願を年とすまをひきけり 田部紀徳

あやまはすのたをぬれりて志願を年とすまをひきけり 伊王

あやまはすのたをぬれりて志願を年とすまをひきけり 伊王

あやまはすのたをぬれりて志願を年とすまをひきけり 伊王

あやまはすのたをぬれりて志願を年とすまをひきけり 伊王

ぬれまじりたるやいばも、
名をばはる程、
中わい奇を山にぬまの五箇あり、
此まはたはてな上は地あり、
きをてく村のつりも、
園わつりつりも、
花はり五月は、
世に

○ 猿蓑のついで

四月二十四日に、
五月五日と、
五月五日と、
五月五日と、

○ 五月五日と、

あつた、
まつた、
しつた、
あつた、
まつた、
しつた、
あつた、
まつた、
しつた、

庭の あら女と料末をそのてとちろひ髪うて落つり者もあらし信堂
ちろひて下とそととくまれふいぬのう人もて取つてさつふ

物十をいふあつち信堂と人のみ信此に信堂とてさつたり

上のまて信堂といふま

うたさうく花信堂とあつちとさつりつらんりつてあつち

信堂とあつち

あつちと信堂のこつてさつりつてさつりつてさつりつてさつりつて

小科ま信堂と信堂と此あつちと人まりつて信堂といふこ

あつちと信堂とあつちとあつちとあつちとあつちとあつちとあつちと

○此十信堂と信堂

信堂と信堂と信堂と信堂と信堂と信堂と信堂と信堂と信堂と信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

四月さうりあしう者をぬき

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

あつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂とあつちと信堂と

Faint vertical text on the right page, possibly bleed-through from the reverse side.

人中は若衆ありとて他シも申し侍りて其時よさきもえりし 携信

四十九年甲午申一巻巻末に二巻あり 四巻七巻

一巻の目もやとて二巻のものもいふそ河日入に 信玄

人の世のさきぞはばちさむいふたのたのしむあり

はたしつゝ山をいふゆきなまゝ六月をこころをいふたのたのしむ

大坂陣代北軍を治むる信玄の御書

野原中より入るを人ぞやとて山をいふとて雪のほくしとて 甲村信玄

あまの山白のまをいふ花を折らばぬちとてまはる色 林林本

あまの山白の湯をいふ花を折らばぬちとてまはる色 林林本
はたしつゝ山をいふゆきなまゝ六月をこころをいふたのたのしむ

此の世は極楽なりと云ふ者數多し此の世は極楽なり

松田平年

林を歩きて山に坐して思ふ

深山 深山 深山 深山

なれども一十の葉をていふ者も毎の海をこえてゆく山を思ふ

名作も世の中を思ふ心で思ふなり一村中にも枯れてゆく

松田平年

松田平年 松田平年

物にてもありまじりぬ夜をぬれ松田平年 中山三神

竹葉 松田平年

寺山出雲物家の野村の山ありて寺の白雲

信州四角位

階にたぐりて思ふ松田平年 寺村松田平年

中井若樹平

松田平年 松田平年

松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

寺の山ありて思ふ松田平年 寺村松田平年

其の在れつを言ひたるは、中いありし、雲さるるを言ふとあり

修へあてをた、北代を言ふとあり、人の心に言ふとあり

たまため、御女川のたまため、空を言ふとあり、たまためを言ふとあり

本意を御女川のたまため、物言ひのたまため、秋のたまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

○ 井の中北のたまため、たまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、たまため、

政史十巻抄 巻之六

海上月、水とて入る、海の上とて、水のたまため、たまため、

海は月、舟舟とて、のたまため、たまため、たまため、たまため、

海下、水とて、舟舟とて、のたまため、たまため、たまため、

たまため、たまため、たまため、たまため、

Handwritten text in a cursive script, likely a list or index of names and titles. The text is dense and fills most of the page.

太閤紀後考

Handwritten text in a cursive script, continuing the list or index. It includes several entries with names and titles, such as '一 住長' and '一 住長'.

書と云ふは、ついで丹波と云ふは、
 一ノノ、子午の精、素不中、必女の志、
 漢の以て、一ノノ、子午の精、素不中、必女の志、
 いと、たうとく、花を、きり、
 那、若、も、お、た、り、
 三ノノ、
 昔の、
 第一、
 陳右の、
 主権、

及、
 夫、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、

亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、
 亦、

一 評句をたてて馬場のゆきを春の中流す
小倉沖 住吉三味

山はぬき花ぬき程花りの花の口は山田を不問とこまに

住吉沖 住吉三味

春代花の春ははつみき移りぬき千井に上りて山部一公

文政二年

あぢりあきやまじしきたたに友をじてのちけいもろとて和く

文政二年

をこふれそり候へ此のゆきを移りて時に似ぬ一ゆき

息のこけい

思ひこや竹園北史の年のそなをこまに流波人換は

○評句打説あり 有老五員記十二

つぎをばまんのあをえんわくを乃代へのたぐをこけいんを

春代花の春ははつみき移りぬき千井に上りて山部一公
文政の君のゆきをいふれそり候へ此のゆきを移りて時に似ぬ

○あぢりあきやまじしきたたに友をじてのちけいもろとて和く

をこふれそり候へ此のゆきを移りて時に似ぬ一ゆき

思ひこや竹園北史の年のそなをこまに流波人換は

つぎをばまんのあをえんわくを乃代へのたぐをこけいんを

春代花の春ははつみき移りぬき千井に上りて山部一公

あぢりあきやまじしきたたに友をじてのちけいもろとて和く

をこふれそり候へ此のゆきを移りて時に似ぬ一ゆき

思ひこや竹園北史の年のそなをこまに流波人換は

昔者打たれし其の始りあきしはたれをその上人
即ち後か 殿内にて女存す候事とあり

玉をとり給ふことなほけり世にありてあつく志願す所を其の業
をいへりし唐の徳意ある山やてをそはくある上人

あはれまじ心をよのやき世にたれをたれとての業
院に刻せしむるも乃の守りておふあひて其のしるの世にありて

○ 昔は古のまじりし
此れよりあきの横は自横のぬらぬらありて此れたれありて

昔は古のまじりし
又聞きの花はありし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし

女林三年二月廿五日 昔は古のまじりし

海よりありし

昔のまじりし

花の影にうつりしをいへりし 昔は古のまじりし
不戦は陽土左衛門の女とて是は昔のまじりし
此のまじりしは昔のまじりし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし

大御堂のまじりし

昔は古のまじりし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし
昔は古のまじりし

花の逆君は体々中も花の香もまだ六と花もさききさき全柄（事不
中舎此有）の如き名山の花もさきさき何者哉。花の如く
静養花の如く静養の如く静養花の如く静養花の如く静養
静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養

○名をもちて花の如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養

○大園記ハ物語並 干梅州ニ交海馬ふりし付ニ木二仲ノ名
○天化ノ如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
天化ノ如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
天化ノ如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養
天化ノ如く静養花の如く静養花の如く静養花の如く静養

汗白く他と云ふ所不し然し其を二則に類に傳し終了
事はく思ひの少くし新ありて予君ありて其を少く傳
し其の少く傳に當き終りて傳し其の君に二其の少
うくくくく代むをいひあ

○物と云ふ才を平

将十良のち不ぬ一但米地千中不ぬ一公士
詰曰固又王云云をいひて下なるより多きを云
まてす

○日方深公勅世父曰柱を以て而柱は未だ能守柱者老
而柱は未だ能守柱者老而柱は未だ能守柱者老
長云之計りて世父云云の事也其の事也其の事也
事一車の事なり深公云云の事なり其の事なり其の事なり
多きを傳し其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり

○因ふ丸能能也

嘗就少幼之徒其教者即生也其物長乎全教也深
者則生也其力厚也山也其術名流則水也而其勢也其
淵澤沙刻也其望之也其望之也其望之也其望之也
夫定能渡也其則不其能必其能也其能也其能也其能也
事則其能也其能也其能也其能也其能也其能也其能也

○因于物何也

夫云云の以て其の事なり其の事なり其の事なり其の事なり
行

守傳何則也

諸君人其能也其能也其能也其能也其能也其能也其能也

〇平孝の杜比法書や、明衣集、佛の月を多々云
 八十五歳に上りて、梅村三孝の湯小方、（梅村三孝）とて
 うちや、（梅村三孝）を、梅村を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 不意と、（梅村三孝）を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 梅を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 の下に、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 と、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 去、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 〇平孝の杜比法書や、明衣集、佛の月を多々云
 八十五歳に上りて、梅村三孝の湯小方、（梅村三孝）とて
 うちや、（梅村三孝）を、梅村を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 不意と、（梅村三孝）を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 梅を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 の下に、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 と、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 去、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 〇平孝の杜比法書や、明衣集、佛の月を多々云
 八十五歳に上りて、梅村三孝の湯小方、（梅村三孝）とて
 うちや、（梅村三孝）を、梅村を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 不意と、（梅村三孝）を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 梅を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 の下に、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 と、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 去、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）

人の一生いふと、河を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 め、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 〇平孝の杜比法書や、明衣集、佛の月を多々云
 八十五歳に上りて、梅村三孝の湯小方、（梅村三孝）とて
 うちや、（梅村三孝）を、梅村を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 不意と、（梅村三孝）を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 梅を、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 の下に、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 と、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）
 去、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）とて、（梅村三孝）

元禄二年二月

車取の非も中越行

仙臺越水に渡りゆく

仙臺越水に渡りゆく

仙臺越水

仙臺越水に渡りゆく

仙臺越水に渡りゆく

仙臺越水に渡りゆく

堪の里

昔者此の所より

舟を渡りて

舟を渡りて

舟を渡りて

舟を渡りて

舟を渡りて

舟を渡りて

一 此書は... 二 近日... 三 此書... 四 此書... 五 此書... 六 此書... 七 此書... 八 此書... 九 此書... 十 此書...

○ 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

○ 一... 二... 三... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十...

此山...

精思...

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a record, covering the right page of the manuscript.

奥山公

空村抄不^レ大^レ不^レ作^レ信^レを^レほ^レく^レは^レは^レ地^レ下^レ山^レ乃^レ蓮^レ木
免^レす^レを^レ之^レ福^レ祿^レ壽^レの^レ得^レら^レう^レと^レを^レ轉^レり^レな^レま^レあ^レま^レう^レう^レつ^レし^レ得^レ
新^レ七^レ一^レ夕^レの^レこ^レやく^レ萬^レの^レ輪^レを^レ活^レく^レし^レわ^レと^レ河^レを^レ也^レ
ま^レま^レ香^レは^レ水^レと^レ身^レの^レ如^レき^レ年^レの^レひ^レて^レ風^レま^レち^レの^レ如^レお^レの^レま^レ也^レ
村^レ月^レ公^レ並^レ村^レの^レ月^レを^レ行^レう^レと^レ村^レを^レさ^レな^レ者^レ此^レ部^レを^レつ^レま^レ保^レめ^レん
八^レ月^レの^レ也^レせ^レけ^レハ^レヤ^レ子^レリ^レト^レモ^レ在^レ年^レキ^レを^レ常^レと^レす^レ月^レノ^レリ^レト^レモ^レ雨^レハ^レツ^レル^レト^レモ
年^レの^レ也^レを^レ其^レの^レ也^レと^レも^レま^レま^レの^レ也^レと^レも^レを^レ別^レふ^レは^レさ^レこ^レを^レさ^レの^レ也^レ
歲^レ也^レ 昔^レハ^レト^レモ^レ其^レの^レ也^レも^レ今^レの^レト^レモ^レト^レモ^レ心^レト^レモ^レキ^レ
馬^レ也^レと^レヤ^レと^レ不^レ風^レあ^レる^レ并^レ村^レの^レ也^レ 奥山公

Handwritten text in German, likely a letter or document, written in a cursive script. The text is dense and fills most of the page.

中法歌二集録

正着三三三

竹後三三

Handwritten text in Japanese, written in a cursive script. The text is dense and fills most of the page.

中二ひとらふあんとおのたまふり 高き
 とれくそしゆあをまふ平すつらんむの
 神りしを白ふさるのひとをこ
 神り非のささのあしとをさやもとせり
 十五軍よりあはれじしきとを 章行
 たるひあますふひとくにむそめは
 神りしありのをやまひとん 兼光
 赤らね 活きぬ後をひとてふるさあ
 さうりあさぬをひとてふるさあ

赤らね 活きぬ後をひとてふるさあ
 さうりあさぬをひとてふるさあ

赤らね名私

赤らねとては遠くはれを運物言とて所はれむ
 いたる方程を前れた程はあふむとてやとて言一
 家の神りまを後れはさふりし相程とてああ妙く言
 るはさ程とて言ふもあも程とて言ふもいし言はれ
 の程とて言はれむとて言ふもあも程とて言ふもいし言はれ
 不たると言はれむとて言ふもあも程とて言ふもいし言はれ

○赤らねしゆあをまふ平すつらんむの

赤らねしゆあをまふ平すつらんむの

觀遠聞老奉記大成卷之六

名所題升系

此篇在吾 穴守封國之外得名於縣林之地也後反守強及諸
家之說疑為外系然以其地理不詳而承及分郡縣故不疑矣
故軍人軍實為他物於見聞之日尤可辨其闕略云

白河園

管主片 石中の白河の園をいふ 平 天 長
伊あつていつそ和くまやう書をふー川の里にこまぬ



Handwritten text at the top of the page, possibly a title or introductory note.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of vertical writing.

諷歌新聞卷之第一

天竺神
口下神
口下神
口下神
口下神

Main body of handwritten text on the left page, continuing the vertical writing from the right page.

末上巻の心とて三月三日の節にまつて之とて

仁徳 右仁徳を説く本は仁徳に在り 井上五郎

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

仁徳 仁徳は仁徳の徳に在り 仁徳は仁徳の徳に在り

心夏秋多 歌川 大井氏牧

三味下 雲北よ北の... 井と多難

心とと... 井と多難

心とと... 井と多難

心とと... 井と多難

心とと... 井と多難

心とと... 井と多難

心とと... 井と多難

神護甲
才也
十管
丙

何れも... 井

行... 大... 不... 知... 知... 知...

十管... 丙... 知... 知... 知...

丙... 知... 知... 知...

大... 知... 知... 知...

知... 知... 知... 知...

知... 知... 知... 知...

知... 知... 知... 知...

知... 知... 知... 知...

知... 知... 知... 知...

二日十二

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

元... 元... 元... 元...

若くは...

此の... 此の... 此の...

四月... 四月... 四月...

此の... 此の... 此の...

五月... 五月... 五月...

此の... 此の... 此の...

六月... 六月... 六月...

此の... 此の... 此の...

七月... 七月... 七月...

此の... 此の... 此の...

八月... 八月... 八月...

此の... 此の... 此の...

一月... 二月... 三月... 四月... 五月... 六月... 七月... 八月... 九月... 十月...

かく... かく... かく...

まう... まう... まう...

あつ... あつ... あつ...

あつ... あつ... あつ...

あつ... あつ... あつ...

あつ... あつ... あつ...

あつ... あつ... あつ...

あつ... あつ... あつ...

あつ... あつ... あつ...

○武井舟一羊袴しく羽を不れ三つを言ふ事一このむ

○信里徳能お徳村し事信北河少時う信常法福三へ地や

○大入の事ま子内し事まを行りし事 武井舟一信里徳能

○田原田もや若松も若村も若原も若崎のもうま保しんも

○守部北河やうあつりし事しんもしく 西一信一

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○若今討てない事有へつんもあつりし事

○
 大略
 三都
 相
 以
 考
 女
 時
 二
 別
 甘

陰宅社

亦三位漁有功

はつらつとやきとまよのねゆ

和らけしとやきとまよのねゆ

しづかきとやきとまよのねゆ

世のまよきとやきとまよ

白雲此方よりあたるまよのねゆ

まよのねゆのまよ

まよのねゆのまよのねゆ

Handwritten text in a cursive script, likely a letter or a list of names, starting with "Herrn..." and "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

托年... 青山...

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

Handwritten text, possibly a name or a title, starting with "Herrn..."

あまのこころしむればあつらふしをばしきとておぼしめさせ
さき竹の秋

○此の二日十一つろまへに無難なるも八十のあめ史三三の秋
字に出来しむるを中野二村に就ニクとも無神をあらう事覚え
りしとてくしゆを秋にシテ 秋の秋

○二月十日の中野の秋
年を延ばしあもさき世にわが寺のたゞの秋にけりし 中野
まゝの年のひかりの例にくまの秋にけりし 中野
あつらふる年のひかりにききし 中野

天徳寺との年におもひの秋にけりし 中野
さき例にさき秋の秋にけりし 中野
公田のあめ、秋にけりし 中野
さき例にけりし 中野

天徳寺との年におもひの秋にけりし 中野
さき例にさき秋の秋にけりし 中野
公田のあめ、秋にけりし 中野
さき例にけりし 中野

天徳寺との年におもひの秋にけりし 中野

[Faint, mostly illegible handwritten text in the upper right section of the page.]

古村君世保、年五十二を以て歿す。元治二年、（一）

存す。其の

生年は元治二年と傳つたが、このころに在り得る所、然るに

非ずと考へる。

其の未だ幼少の頃より、其の志を成さんとす。其の志を成さんとす。

龍文の字、（二）

書法

名もつた

Dr. W. C. C. W. C.

Dr. W. C. C. W. C.

Dr. W. C. C. W. C.

Dr. W. C. C. W. C.

Dr. W. C. C. W. C.

Dr. W. C. C. W. C.

Dr. W. C. C. W. C.

此書公談學の書は社中芳一親に於て日本以来二三卷

書本の書名ありしを其書に於てその中に何と云ふか

読みしにその書名をわが書にありしこと其書に

近しく其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

ありしに其書名をわが書にありしこと其書に

1. 諸君の御覧の如く、此の書は、
 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100. 101. 102. 103. 104. 105. 106. 107. 108. 109. 110. 111. 112. 113. 114. 115. 116. 117. 118. 119. 120. 121. 122. 123. 124. 125. 126. 127. 128. 129. 130. 131. 132. 133. 134. 135. 136. 137. 138. 139. 140. 141. 142. 143. 144. 145. 146. 147. 148. 149. 150. 151. 152. 153. 154. 155. 156. 157. 158. 159. 160. 161. 162. 163. 164. 165. 166. 167. 168. 169. 170. 171. 172. 173. 174. 175. 176. 177. 178. 179. 180. 181. 182. 183. 184. 185. 186. 187. 188. 189. 190. 191. 192. 193. 194. 195. 196. 197. 198. 199. 200. 201. 202. 203. 204. 205. 206. 207. 208. 209. 210. 211. 212. 213. 214. 215. 216. 217. 218. 219. 220. 221. 222. 223. 224. 225. 226. 227. 228. 229. 230. 231. 232. 233. 234. 235. 236. 237. 238. 239. 240. 241. 242. 243. 244. 245. 246. 247. 248. 249. 250. 251. 252. 253. 254. 255. 256. 257. 258. 259. 260. 261. 262. 263. 264. 265. 266. 267. 268. 269. 270. 271. 272. 273. 274. 275. 276. 277. 278. 279. 280. 281. 282. 283. 284. 285. 286. 287. 288. 289. 290. 291. 292. 293. 294. 295. 296. 297. 298. 299. 300. 301. 302. 303. 304. 305. 306. 307. 308. 309. 310. 311. 312. 313. 314. 315. 316. 317. 318. 319. 320. 321. 322. 323. 324. 325. 326. 327. 328. 329. 330. 331. 332. 333. 334. 335. 336. 337. 338. 339. 340. 341. 342. 343. 344. 345. 346. 347. 348. 349. 350. 351. 352. 353. 354. 355. 356. 357. 358. 359. 360. 361. 362. 363. 364. 365. 366. 367. 368. 369. 370. 371. 372. 373. 374. 375. 376. 377. 378. 379. 380. 381. 382. 383. 384. 385. 386. 387. 388. 389. 390. 391. 392. 393. 394. 395. 396. 397. 398. 399. 400. 401. 402. 403. 404. 405. 406. 407. 408. 409. 410. 411. 412. 413. 414. 415. 416. 417. 418. 419. 420. 421. 422. 423. 424. 425. 426. 427. 428. 429. 430. 431. 432. 433. 434. 435. 436. 437. 438. 439. 440. 441. 442. 443. 444. 445. 446. 447. 448. 449. 450. 451. 452. 453. 454. 455. 456. 457. 458. 459. 460. 461. 462. 463. 464. 465. 466. 467. 468. 469. 470. 471. 472. 473. 474. 475. 476. 477. 478. 479. 480. 481. 482. 483. 484. 485. 486. 487. 488. 489. 490. 491. 492. 493. 494. 495. 496. 497. 498. 499. 500. 501. 502. 503. 504. 505. 506. 507. 508. 509. 510. 511. 512. 513. 514. 515. 516. 517. 518. 519. 520. 521. 522. 523. 524. 525. 526. 527. 528. 529. 530. 531. 532. 533. 534. 535. 536. 537. 538. 539. 540. 541. 542. 543. 544. 545. 546. 547. 548. 549. 550. 551. 552. 553. 554. 555. 556. 557. 558. 559. 560. 561. 562. 563. 564. 565. 566. 567. 568. 569. 570. 571. 572. 573. 574. 575. 576. 577. 578. 579. 580. 581. 582. 583. 584. 585. 586. 587. 588. 589. 590. 591. 592. 593. 594. 595. 596. 597. 598. 599. 600. 601. 602. 603. 604. 605. 606. 607. 608. 609. 610. 611. 612. 613. 614. 615. 616. 617. 618. 619. 620. 621. 622. 623. 624. 625. 626. 627. 628. 629. 630. 631. 632. 633. 634. 635. 636. 637. 638. 639. 640. 641. 642. 643. 644. 645. 646. 647. 648. 649. 650. 651. 652. 653. 654. 655. 656. 657. 658. 659. 660. 661. 662. 663. 664. 665. 666. 667. 668. 669. 670. 671. 672. 673. 674. 675. 676. 677. 678. 679. 680. 681. 682. 683. 684. 685. 686. 687. 688. 689. 690. 691. 692. 693. 694. 695. 696. 697. 698. 699. 700. 701. 702. 703. 704. 705. 706. 707. 708. 709. 710. 711. 712. 713. 714. 715. 716. 717. 718. 719. 720. 721. 722. 723. 724. 725. 726. 727. 728. 729. 730. 731. 732. 733. 734. 735. 736. 737. 738. 739. 740. 741. 742. 743. 744. 745. 746. 747. 748. 749. 750. 751. 752. 753. 754. 755. 756. 757. 758. 759. 760. 761. 762. 763. 764. 765. 766. 767. 768. 769. 770. 771. 772. 773. 774. 775. 776. 777. 778. 779. 780. 781. 782. 783. 784. 785. 786. 787. 788. 789. 790. 791. 792. 793. 794. 795. 796. 797. 798. 799. 800. 801. 802. 803. 804. 805. 806. 807. 808. 809. 810. 811. 812. 813. 814. 815. 816. 817. 818. 819. 820. 821. 822. 823. 824. 825. 826. 827. 828. 829. 830. 831. 832. 833. 834. 835. 836. 837. 838. 839. 840. 841. 842. 843. 844. 845. 846. 847. 848. 849. 850. 851. 852. 853. 854. 855. 856. 857. 858. 859. 860. 861. 862. 863. 864. 865. 866. 867. 868. 869. 870. 871. 872. 873. 874. 875. 876. 877. 878. 879. 880. 881. 882. 883. 884. 885. 886. 887. 888. 889. 890. 891. 892. 893. 894. 895. 896. 897. 898. 899. 900. 901. 902. 903. 904. 905. 906. 907. 908. 909. 910. 911. 912. 913. 914. 915. 916. 917. 918. 919. 920. 921. 922. 923. 924. 925. 926. 927. 928. 929. 930. 931. 932. 933. 934. 935. 936. 937. 938. 939. 940. 941. 942. 943. 944. 945. 946. 947. 948. 949. 950. 951. 952. 953. 954. 955. 956. 957. 958. 959. 960. 961. 962. 963. 964. 965. 966. 967. 968. 969. 970. 971. 972. 973. 974. 975. 976. 977. 978. 979. 980. 981. 982. 983. 984. 985. 986. 987. 988. 989. 990. 991. 992. 993. 994. 995. 996. 997. 998. 999. 1000.

諸月十のち容母久人未煮。二京木を焼く。
 於にシくかあ、シ、ツ、ー、と、と、め、京。

十人、口、果、樹

寸或月子山のこるるを、
 白雲千あ、山、計、
 月

Dein...
+ ...

...
...
...

...

...

...

...

...

Handwritten text in a cursive script, possibly a signature or a list of names, located at the top of the right page.

Vertical handwritten text in the center of the right page, likely a title or a section header.

Main body of handwritten text on the right page, consisting of several lines of cursive script.

Faint handwritten text on the left page, mostly illegible due to fading.

1870
 1871
 1872
 1873
 1874
 1875
 1876
 1877
 1878
 1879
 1880
 1881
 1882
 1883
 1884
 1885
 1886
 1887
 1888
 1889
 1890
 1891
 1892
 1893
 1894
 1895
 1896
 1897
 1898
 1899
 1900

一 姓 名

一 姓 名

まりたのへーだてにまをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 うつ一修そとまのりをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 向うの海に心らふあつさうさうさうさうさうさうさうさうさう
 名ことおをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 本城城やまもさるべくさうてこま一ひのちの十子
 小倉城城やまもさるべくさうてこま一ひのちの十子
 名ことおをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 まりたのへーだてにまをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 うつ一修そとまのりをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 向うの海に心らふあつさうさうさうさうさうさうさうさう
 名ことおをさるべくさうてこま一ひのちの十子
 本城城やまもさるべくさうてこま一ひのちの十子
 小倉城城やまもさるべくさうてこま一ひのちの十子
 名ことおをさるべくさうてこま一ひのちの十子

三十有九嘉保今年十間所作之傷歎及人藤若于美
當院乎當世以神教林秀意之家臨訪陳別以借毛
餅つ成脚を曰麻杜嘉禁以信宗不然盡美之舉則幸
矣

十值嘉保三戌戌或二月

石山

千穂若切

うらまの河のねもしくあをせうきさくやうそわん

うねりくろくあくすけ白雲此方いひあくものろくく赤

あか足代と神の志とまはれぬのすまも此山のろくきとひ

志場を延家世も年りけりこの字も此山の世のそく

多女の湯やその多小地まて静まをいふ説あてたての計

手次陸の海きとそふ陸谷の月物我のまてり形すん

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

一形に成るるに、其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

徳川郎八公

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

松平の藩政は多岐にわたる。其の功徳は神代也。世に思はるる。

夕つら日目のうに照る花傳わくくゆあふ時色く——て
むんそまゆり

むんそまゆり

八極社歌

ふれあふの志のうたわらさくやくこの神乃世をさうます
○松井郎八景

松井さあ

鹿法くさこみよしの松の井木あ年すむささかそこまはけ
柳上行く

歌つら里の中ゆく水はれ行くふらり流ぬ川を——

松井さあ

鹿法くさこみよしの松の井木あ年すむささかそこまはけ
柳上行く

松井さあ

ふれあふの志のうたわらさくやくこの神乃世をさうます
○松井郎八景

松井さあ

鹿法くさこみよしの松の井木あ年すむささかそこまはけ
柳上行く

夕つら日目のうに照る花傳わくくゆあふ時色く——て
むんそまゆり

茂海夕三

巻たりつゝ最上つたすめさしくおろしにわたり

(Faint handwritten text, likely bleed-through from the reverse side)

翠平沙八集

○古き葉の風／＼○風琳瑞霜○寺後／＼寒煙

○七蕨の雪／＼○山掛も／＼○掛石松堅／＼

○茶室炊煙／＼ あのをまきこいささごとくけしりの

○天際遠帆／＼○そ舞翠葉／＼○老樹世味／＼

○越後巻／＼○東／＼高松／＼雲／＼

○翠平羽丹楓／＼ 翠平のたよりをきくあそびの心

(Additional handwritten notes at the bottom left)

○ 滿法八景
 白尖蒼雪 滿法在石 常時見 遠浦晚
 煙千日住 平沙共雁 漁村夕照 洞底長月
 ○ 近江八景
 近江破岸
 比古雪雪 矢指内帆 石山秋月 新夕夕照
 三井山鏡 望南塔 粟津晴嵐 幸法在石
 ○ 南都八景
 南園老道 依佛列嶺 穗波清月 春夕晚景

○ 滿法八景

白尖蒼雪 滿法在石 常時見 遠浦晚
 煙千日住 平沙共雁 漁村夕照 洞底長月

○ 近江八景

近江破岸
 比古雪雪 矢指内帆 石山秋月 新夕夕照
 三井山鏡 望南塔 粟津晴嵐 幸法在石

○ 南都八景

南園老道 依佛列嶺 穗波清月 春夕晚景

室津北五郎

中丁新うらむとさうてふ室津北のまは、霞さきあま白雲

石山山麓

うたあそびあそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

向島原のうらむ

わがあそびあそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

村のうらむ

ゆきあそびあそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

室津川にむか

室津川にむか、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

あそびのうらむ

あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

室津川にむか

室津川にむか、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

石山山麓

あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

三井のうらむ

あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

室津川にむか

あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

大物原のうらむ

あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

室津川にむか

あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ、あそびのうらむ

新あきくみさ新しゆまもつちかたかくくまなひきあけ
若多夕照

霞しん水もく下とみくそ地さけくく多北也ふおあ
比官ささ舎

雪をふくしんあき新しゆまもつちかたかくくまなひきあけ

三井か村

三井か村

中務所跡也

明暦帝震翰 修秋

木取 かくし

十の字をて

尾まの

白河

をるるありあり

志は海

道

水

一五三三

後漢書中自叙其志云志在天下

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

○ 志は海をゆく
○ 志は海をゆく
○ 志は海をゆく

Handwritten text in cursive script, likely bleed-through from the reverse side.

将舒 同古柳

於處に於てはあゝあめつれかきまをてはぬ君より其の湯

元士

皇氏十七史

もあはさるれば心の跡はほろむつと手茶はほろむつとゆふに

峻 真山氏

とあつた花はほろむつとゆふに手茶はほろむつとゆふに

四神 馬場氏

君とせむた望らむとては命をの湯の跡はほろむつとゆふに

琴 中目氏

空梅はほろむつとゆふに手茶はほろむつとゆふに

公平 真山氏

千町田のあゝあめつれかきまをてはぬ君より其の湯

顯能 田村氏

花はほろむつとゆふに手茶はほろむつとゆふに

真可 山口氏

いろくねはほろむつとゆふに手茶はほろむつとゆふに

とゆふに手茶はほろむつとゆふに手茶はほろむつとゆふに

たゞの世に於てはあゝあめつれかきまをてはぬ君より其の湯

もあはさるれば心の跡はほろむつと手茶はほろむつとゆふに

- 一 坊子八人抜
- 一 坊子九人抜
- 一 坊子十人抜
- 一 坊子十一人抜
- 一 坊子十二人抜
- 一 坊子十三人抜
- 一 坊子十四人抜
- 一 坊子十五人抜
- 一 坊子十六人抜
- 一 坊子十七人抜
- 一 坊子十八人抜
- 一 坊子十九人抜
- 一 坊子二十人抜
- 一 坊子二十一人抜
- 一 坊子二十二人抜
- 一 坊子二十三人抜
- 一 坊子二十四人抜
- 一 坊子二十五人抜
- 一 坊子二十六人抜
- 一 坊子二十七人抜
- 一 坊子二十八人抜
- 一 坊子二十九人抜
- 一 坊子三十人抜

坊子八人抜

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 坊子八人抜 | 坊子九人抜 | 坊子十人抜 | 坊子十一人抜 | 坊子十二人抜 | 坊子十三人抜 | 坊子十四人抜 | 坊子十五人抜 | 坊子十六人抜 | 坊子十七人抜 | 坊子十八人抜 | 坊子十九人抜 | 坊子二十人抜 | 坊子二十一人抜 | 坊子二十二人抜 | 坊子二十三人抜 | 坊子二十四人抜 | 坊子二十五人抜 | 坊子二十六人抜 | 坊子二十七人抜 | 坊子二十八人抜 | 坊子二十九人抜 | 坊子三十人抜 |
|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|

其後... 其... 乃... 相... 易... 無... 亦...

其... 亦...

